

令和七 年度

青少年育成春日部市民会議
「少年の主張」作文集



青少年育成春日部市民会議

はじめに

「少年の主張」作文コンクールは、青少年が日頃考えていること、また、体験したことや感じたことを作文という形で表現することによつて、青少年自らが、広い視野に立つて物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会としています。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に対する大人の理解を深める契機としています。

市内小・中・義務教育学校に通う児童、生徒を対象に募集を行い、小学生の部から千三百十七編、中学生の部から二百七十二編の応募がありました。今年度においては、『平和への思い』や『生き方』、『将来の夢や希望』など、様々なテーマで深く考察された作文が集まりました。

応募作文の中から入選作品二十三編が選ばれ、その中から、最優秀賞一編、優秀賞五編が決定しました。この作文集は、最優秀賞、優秀賞の計六編をまとめたものです。青少年が心に抱く様々な主張を、多くの方にご一読いただければ幸いです。

目 次

○ 少年の主張作文 〈最優秀賞〉

自分らしく

○ 少年の主張作文 〈優秀賞〉

人生とは何だ？

イメージ

これが私のお姉ちゃん

ヘルプマークを初めて知った日

生きることでなやめること

○ 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

春日部市立八木崎小学校

六年

弥武

真央

1

春日部市立武里小学校

六年

伊藤

愛美

春日部市立幸松小学校

六年

数村

咲空

春日部市立上沖小学校

六年

佐藤

和奏

春日部市立南桜井小学校

六年

遠藤

理葉

14

12

10

8

6

3

少年の主張作文 〈最優秀賞〉

自分らしく

春日部市立八木崎小学校 六年 弥武 真央

私は学校に行けていない時期があった。「その時」は私の元に突然やつてきた。

みんなが想像する不登校つてどんな感じだろう。何かきっかけがあると思うのではないだろうか。でも、私にとっての日々はとすると、学校で嫌なことがあつたわけでもなく、先生が嫌なわけでも、授業がつまらないわけでも、友達との関係に悩んでいたわけでもなかつた。

理由として考えられるのは、あまり食べないから、朝なかなか起きられないこと、なんとか目が覚めてもご飯が食べられなくて力が出ないこと。

お母さんによく、「何でも完璧にこなそうとしないでいいんだよ。『まあいいか』つて大事だよ。」と言っていた。多分私はなんでもきちんと、しっかりとやりたかったのかもしれない。

たまに学校に登校すると、保健室の先生や担任の先生が、「最近何にハマつているの?」など他愛のない話をしてくれて、クラスのことも教えてくれる。その時は気が付かなかつたけれど、親は毎日「どうしていいかの」つて思つていたと思うし、先生たちも、「明日はどう?」つて思つていたと思う。でも決して意見を押し付けるわけでもなく、寄り添つてくれていたのだなあと今は思うことができる。

このように考えられるのは、今私は普通に登校できるようになつてゐるからだ。どうして行くこ

とができるようになつたのかはわからない。もしかしたらご飯を食べるようになつて、体力がついたからかもしれないし、精神的に少し成長したからかもしれない。一つ気がついたのは、登校するようになつて、「まあいいか」と思えることが増えたことだ。

人権って、難しい言葉だけれど、私にとっては全ての人が自分らしくいられることだと思う。学校に行つていなかつた時期も、今も全部ひつくるめての私。そんな自分を大事にしていきたい。その為には、互いを支え合い、尊重し合うことが大切だ。家族や、友達、先生とのつながりを通じてその大きさを学べたと思うし、まだ十二歳、これから学ぶべきことも沢山ある。わからないこともいっぱいだ。この先また少し心のお休みが必要な時期が来るかもしれない。でも、自分の頭でしっかり考えて、自分の目で、心で感じて生きていきたいと思う。そして、周りの人への感謝も忘れずに行過ごしていきたい。

人生とは何だ？

春日部市立武里小学校 六年 伊藤 愛美

みなさんは人生つて何だと思いますか。私は「人生とは、プラスとマイナスのくりかえし」だと思っています。そう考えたときに大切なのは、プラスもマイナスもどちらも必要だから、一日一日の時間を大切に生きていくことだと思うのです。

私たちは生きていく中でいろいろなことが必要となります。お金・水・食べ物・愛・コミュニケーション力などです。必要なものは人それぞれですが、きっとみなさんもこういう必要なもの一つくらいは当てはまると思います。

しかし、私が一番大切だと思うのは「プラスのでき事とマイナスのでき事」です。きっとみなさんは「何で？」と疑問に思うかもしれません。しかし、私はこれが絶対に一番だと思います。そのように考えるようになったきっかけは、五年生のときの道徳の授業でした。

私たちが住んでいる国は、日本。日本では食べ物がなくて困るとか、お金がなくて困るとか、あまりないようになります。一方で、世界にはお金がない人々もいます。何も食べられなくて死んでしまう人もいます。そんな中でも生き延びている人がいます。

みなさんは、そのような貧しい生活をしたいと思いますか。たしかに、生きていくことが大変なのはよくわかりますし、できればそのような暮らしをする人が一人でもいなくなつたほうがいいと思います。それでも、お金がない国・食べ物がない国で生きていくことが「絶対に不幸だ」と決め

てしまつてよいのでしようか。私は思いません。

道徳の授業ではブータンの国のワンチユク王の話から、「心の龍」について学びました。ワンチユク王は、東日本大震災の五か月後に被災地にやつてきて、被災して心が傷ついている子どもたちに、次のようなお話をしたそうです。

「みなさんの中には、人格という名の龍がいます。その龍は、経験を食べて大きく成長します。龍は経験を食べれば食べるほど、強く、大きくなつていきます。人は経験を糧にして、強くなることができるのです。」

ワンチユク王はこのような話を、ブータンの子どもたちにもするそうです。そしてブータンの子どもたちは、心の龍を感じ、心を育てていくそうです。

ブータンは日本に比べれば、けつして豊かな暮らしをしているとは言えません。でも、心の龍を大切にして育てているので、ブータンの人たちは「自分はとても幸せだ。」と思つているそうです。それは、つらいこと・苦しいことも、全て龍が食べる経験で、自分の心を成長させていえると考えることができます。

この学習から、私が、もしお金がない国に生まれていたらどうなつていたのかを考えました。きっと、私ならがんばつて生きると思います。お金がないつてところで十分不幸せですが、「心の龍」を育てることができれば、その不幸せがいいことにつながるのではないかと思います。だからお金があるとか、美味しい食べ物があるとかそういうことが幸せではなくて、プラスもマイナスも全くふくんだ経験を得ることが幸せなのだと思います。

私がずっとプラスの人生を歩んできたら、もちろん幸せだと感じるはずです。しかし、つまらないとも思うはずです。それは「心の龍」が育つていないと感じるからだと思います。だから、マイナスなことは、私の成長にとつてとても必要だと思います。

マイナスなことが起きたら、それは経験になる。経験は心の龍が食べて、大きな成長につながる。そうして、強くなつて、いつかマイナスだったことは、プラスの経験に変わつていく。そう信じることが人生の中で一番大切だと思います。

私たちが生きていらるのは決して当たり前ではありません。き重なことだと思います。だから私たちが生きている時間を大切にして、すべてを経験に変え、心を育てて生きたいと思います。そうしてマイナスもプラスも全てを受け入れて、心を強く大きく成長させて楽しく生きていこうと思います。

私は「イメージ」がこわいです。みなさんは生きしていく中で出会いがたくさんあつたし、これらもたくさんあると思います。そんな時、初対面の人には「この人は友達が多そう」など、イメージをもつたことも、もたれたこともあると思います。

私は、みんなから「真面目」というイメージをよくもたれます。でも本当は、みんなとふざけて楽しく過ごすことが好きです。それに「しつかりしていそう」というイメージをもたれたこともあります。

私は「真面目そうだね」と言われると「本当はちがうんだけどな」と思つてしまします。それに「イメージとちがつた」と言われると「イメージ通りにしないといけないのかも」と不安になつてしまします。でも、イメージ通りにしていると「本当の自分じやないのに」とか「いつまで続けていればいいのかな」など思つてしまします。まわりの人たちには「真面目ぶつていてる」など言われて「結局どうすればいいのかな」と思つてつらくなつてしまします。私もそうだつたように、イメージはもたれたことで人をつらくさせてしまうこともある大きな問題の一つだと思つています。

なので、私は初対面の人には「この人はこういう人だろうな」というイメージをもたないようになっています。そう決めていてもやっぱりイメージをもつてしまうことはあります。だから、イメージをもつてしまつたときは絶対に口に出さないよう心がけています。

「イメージとちがつた」と言われても、それも自分のギャップなんだとポジティブに考えるようになっています。相手がどんなにイメージとちがつても、それを受け入れられるような人になりたい

です。

まわりの人達には「イメージとちがつた」なんて絶対に言わないでほしいです。たつた一言で相手を傷つけてしまいます。大切な友達だって失つてしまします。「イメージとちがつた」と言われても「イメージ通りにしないといけない」なんて思わなくていいと思います。私と同じようにポジティブに考えるのがいいと思います。自分が自分でいられる友達や場所を見つけたり、イメージとちがつた子を受け入れられる人が増えたりしてほしいです。つらくなってしまっている子がいたら、寄りそつてあげたり、話を聞いたりしてあげることが大切なのではないかと思います。

私は今、イメージ通りでなくとも一緒にいてくれる、大切な友達がいます。つらい時だってそばにいてくれます。なので、どんなにイメージをもたれてつらくなつた子だって必ず受け入れてくれる友達がいると思います。これは子どもでも大人でも全員が関係あることです。相手をつらく思わせてしまうことも、自分がつらくなつてしまふこともあります。

私は「イメージ」がこわいです。でも、そのイメージと上手に付き合っていくために、これからもポジティブに考えるようにしていきます。イメージをもつ人ももたれる人も少なくなつて、イメージで傷ついてしまう人がいなくなればいいと思います。

これが私のお姉ちゃん

春日部市立上沖小学校 六年 佐藤 和奏

みなさんには、兄弟はいますか。私は四人兄弟で、十個上に障がいのあるお姉ちゃんがいます。お姉ちゃんは、だれかに指示をされると、やることが分からずとまどってしまいます。今は、昼間し設に通っています。お姉ちゃんは、現在二十一歳なのですが、勉強は小学校一年生程度の足し算や引き算の勉強をし設でしています。し設では他にも、色々な障がいのある人達とダンスをしたり、家族を招待して手作りのアクセサリーやお皿、畑で育てたおいしい野菜を売つたりなどもしています。し設にいるお姉ちゃんはとても楽しそうで、見ていて安心します。

そんなお姉ちゃんには、頑固なところやなぞのこだわりがあります。例えば、洋服をお母さんが洗たくしようとするとき、すぐにいやがり、

「ドンドンドン。」

と、足で音を立てたり、

「やだ！やだ！」

と、大きな声を上げたりします。自分の物を取られるのがいやだからそのような行動をとつてしまふのは分かるのですが、私はつい、

「うるさい！」

と、はげしい口調で注意をしてしまいます。

街の中でもお姉ちゃんは、何か引っかかることがあれば立ち止まり、さわぎ始めます。私にとつてはいつものことなのですが、他の人には違うようで、横を通つたおじさんに舌打ちをされたこと

や、白い目で見られたことがあります。そんな時私は、自分がはずかしくなるのと、どうして他の人がそのような行動をするのか不思議になる、両方の気持ちが芽生えます。

そこで私は、なぜこのような行動を他の人がとつてしまふのかを調べてみました。すると、無意識のへん見や、障がい者への理解不足の問題などが理由として考えられました。他の人は、自分の身近に障がいのある人がいないため、「自分とは違う」ということだけで、無意識に差別やへん見、こわいというイメージを持つていると思います。テレビやインターネットなどでも、障がい者へのネガティブな情報があり、人々に不安を与えて います。学校や地域も、理解不足による差別意識が未だにあつたり、事実とは違うへん見を作つたりしているケースもあると思います。

私は、障がいがあるというだけで、このような考え方を持つたり、いやな行動をしたりする人を少しでも減らしていきたいです。そのために、今回この作文を書いて、少しでも多くの人に無意識のへん見が無くなつてほしいという自分の思いを知つてほしいと思いました。

みなさんにとっては、私のお姉ちゃんは「障がいのある人」として見えると思います。でも私は、自分が生まれた時からお姉ちゃんが家にいて、障がいがあるお姉ちゃんとの生活が当たり前でした。だから、私にとってのお姉ちゃんは、ふつうのお姉ちゃんです。そう思つて接しているので、ふつうにケンカもするし、物の取り合いもします。頑固なところやこだわりがあるけれど、笑顔がとてもかわいいです。そして、とても記憶力が良く、ポケモンの種類を全部暗記して いたり、家族のスケジュールを全部覚えていて、忘れて いると教えてくれます。私にはない、すごいところです。これが、私のお姉ちゃんです。

ヘルプマークを初めて知った日

春日部市立南桜井小学校 六年 遠藤 理葉

みなさんは、ヘルプマークを知っていますか。ヘルプマークとは、障がいのある人や助けが必要なことが外見では分からない人が持っているマークです。以前の私は、ヘルプマークのことをよく知りませんでした。その時、ある経験をしました。

私が小学校五年生の時の話です。友達四人で公園で遊んでいました。その後、児童館へ行こうか、もう少し公園で遊んでいようかと話し合っていた時、知らない女性がずっと近くにいました。最初は、私たちの近くに立っていただけだったけれど、時間が経つても近くにいたので少し怖くなり移動しました。そうしたら、私達の後を追いかけてきました。走つて移動しても追いかけてきたので、児童館へ行き、助けを求めました。児童館に着いて、児童館の人によることを話すと、

「あの人ね、最近いるね。」

と言っていました。そこで、友人の一人が、

「あの人、ヘルプマークをつけていたよ。」

と言いました。私は、ヘルプマークのことは知っていたけれど、実際に見たことは無く、その時は逃げることで精一杯だったので、そこまで気が回らず、持ち物まで見ていませんでした。児童館の人は、

「一緒に遊びたかったのかもしれないね。怖い人ではないよ。」

と言っていました。その言葉に安心したけれど、それと同時に逃げてしまつたことに罪悪感を持ちました。家に帰つてから、そのことを親に話したら、

「良い勉強になつたね。」

と言わされました。

このことが、私が今までなんとなく知っていたヘルプマークをきちんと知るきっかけになる出来事でした。ヘルプマークのことを分かつていれば、その人に対する対応もきちんとできたと思うし、おびえて逃げることもなかつたと思います。また、今回は四人の友達の中の一人だけがヘルプマークに気づいていたけれど、私も気が付いていれば、二人で冷静になり、逃げる以外の対応ができていたのではないかと思うと、あの女性に対して、申し訳ない気持ちになりました。

ただ、今回の出来事でも、ヘルプマークを付けている人が私達にどうしてほしいのかは、見た目では分からぬなと思いました。そこで、私はヘルプマークについて調べてみました。表面は赤色の下地にハートと十字のマークが白色で描かれています。裏面は困り事や必要な支援が記入できるようになっています。私は、表面のマークは知っていたけれど、裏面のことは今回調べてから初めて知ったので、私と同じようにヘルプマークの表面は知っていても、裏面を知っている人は少ないのではないかと思いました。このことをたくさん的人が知ることで、ヘルプマークの意味があるのではないかと思います。

偏見からヘルプマークを付けない人もいるけれど、私は付けた方が良いと思います。何かあつた時に手助けできなからです。ヘルプマークを付ける側の人も助ける側の人も「周囲の反応が気になる」というような理由で利用しなかつたり、助けなかつたりするのは残念だなと思います。お互いが一歩ふみ出す勇気を持てば、誤った先入観をなくしてスムーズに助け合いができると思います。私は、みんながヘルプマークについて気にかけて過ごしていくことで、お互いを理解し傷つけることなく過ごせる社会になると良いなと思いました。

生きることでなやめる」と

春日部市立江戸川小中学校 六年 樋口 綾

みなさんは、今なやんでいることはありますか。私はあります。しかし、なやんでいる人はだれしもが、「なやむ」とはあまりいいことではない」と思つてはいるかもしません。「でも、とらえ方を変えれば、なやむ、ということが本当はどういうものなのか、分かるかもしない」と考えました。「生きているから、なやむことができる」と。確かに、そもそもこの世に生まれていなければ、なやむことも、悲しいことも、いやな気持ちになることもあります。逆に考えてみれば、うれしいことも、楽しいこともあります。そこで私は、生きているからこそ、うれしいことや悲しいことがある、と思い、生きるには、苦しみや悲しみはつきものだと考えました。どういうことかといふと、「生きる上で、なやむ」とは、人生を一生けん命生きようとしているあかし」ということを言いたいのです。

私の経験で、一番なやんだのは、人間関係です。「どうしたら仲良くなれるのだろう」「どうすれば一緒に話せるのだろう」など色々なことでなやみました。しかし、このなやみをマイナスではなく、プラスに考えるにはどうすればいいのかということは、まだその時点では考えられませんでした。なぜなら、考える余裕などがなかつたからです。そして、少しづなやみが少なくなつたときに、初めて「なやむこと」について深く考えました。そこで、「生きていること」と「なやむこと」は、どのようにつながつてているのかを考えました。結果、生きているからこそ、なやむことができる、

つまり、「生きている上で、なやむことは、人生を一生けん命生きようとしているあかし」ということだと私は思いました。そのため、なやむことをあまりマイナスに考えすぎず、「生きる上でなやみはつきものだ」というような「プラス思考」に変えて考えることが大切だと思います。

このように、なやむことは、生きているからこそできる、大切なことだと思います。みなさんも、なやむことをあまりマイナスに考えすぎず、「プラス思考」に変えて考えてみてはどうでしょうか。

青少年育成春日部市民会議のあゆみ

平成八年度

- ・春日部市青少年健全育成推進会議設立（七月二十七日）

- ・かすかべ郷土かるた大会を推進会議と教育委員会との共催で実施（十二月十五日）

平成九年度

- ・捨て看板等の違法広告物撤去作業スタート（十二月二十日／平成十七年度まで毎年実施）

- ・ふれあい広場での非行防止啓発活動スタート（十一月二日）

- ・冊子「たいせつな家庭」作成・配布（平成十六年度まで毎年作成・配布）

平成十一年度

- ・市内幼稚園・保育園・保育所の園長・所長を交えて「家庭教育座談会」を実施（九月二十二日／平成十六年度まで毎年実施）

平成十四年度

- ・春日部市青少年健全育成基本条例施行（四月一日）

- ・第十回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月二十四日）

平成十六年度

- ・「青少年育成春日部市民会議」に名称を変更（四月一日）

平成十八年度

- ・第十四回かすかべ郷土かるた大会より、小学生の部、中学生の部に分けてトーナメント戦を実施（十一月十九日）

- ・青少年育成春日部市民会議設立十周年記念式典を開催（十二月十四日）
- ・青少年育成埼玉県民会議青少年育成功労賞受賞

平成二十一年度

- ・シラコバト賞受賞（十一月十四日）

平成二十二年度

- ・第十八回かすかべ郷土かるた大会より、一部改定した新かるたを使用（十一月十四日）
- ・青少年関係団体連携活動講演会を開催し、ノーベル化学賞受賞者　白川英樹筑波大学名誉教授を講師に迎えた（一月二十三日）

平成二十三年度

- ・第二十回記念かすかべ郷土かるた大会より、ファミリーの部を創設（十一月十一日）

平成二十五年度

- ・市民会議ロゴマークを制定
- ・環境浄化活動講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として俳優　藤岡弘、氏を迎えた（十月二日）

平成二十六年度

- ・家庭教育講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として直木賞受賞作家　志茂田　景樹氏を迎えた（二月十三日）

平成二十八年度

- ・市民会議設立二十周年記念　青少年健全育成標語を募集

令和元年度

- ・青少年健全育成講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として元F C 東京社長、東京ガスケミカル株式会社常務取締役　阿久根謙司氏を迎えた（一月三十一日）

令和二年度

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、第二十八回かすかべ郷土かるた大会を中止

令和三年度

- ・環境浄化活動講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を、オンラインによる限定配信で開催し、講師として特非A S K　認定依存症予防教育アドバイザー　三森　みさ氏を迎えた

（一月二十日）

令和四年度

- ・第三十回かすかべ郷土かるた大会を三年ぶりに開催（十一月六日）

- ・青少年健全育成講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を会場及びオンラインによる限定配信で開催し、違法・有害情報相談センター長　石原　友信氏を迎えた（一月二十日）

令和五年度

- ・第三十一回かすかべ郷土かるた大会を開催（十一月二十六日）

・家庭教育講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を開催し、特定非営利活動法人子どもと文化のNPO Art.31 大屋 寿朗氏を迎えた（一月四日）

令和六年度

- ・第三十二回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月十七日）

・環境浄化活動講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を会場及びオンラインによる限定配信で開催し、埼玉県ネットアドバイザー 吉田 理子氏を迎えた（一月二十六日）

令和七年度

- ・第三十三回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月三十日）

・青少年健全育成講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）開催し、公益社団法人スコーレ家庭教育振興教会 渡部 幸枝氏を迎えた（一月三十一日）

令和八年一月発行

編集・発行

青少年育成春日部市民会議